

秋田県北地域の冬期観光における地域展開について

川村 綾*1 坂 憲浩*1 渡辺 信悦*1

1. はじめに

秋田県北地域は大館、鷹巣、花輪の3つの盆地と能代平野、4市4町1村の全9市町村から構成され、北西部には東北で唯一の世界自然遺産「白神山地」が広がり、東西を米代川が流れるなど自然豊かで伝統・文化が息づく地域であり、域内人口は約24万人で県全体の約22%を占め、面積は県全体の38%に相当する約4,400km²である。観光面では、白神山地（写真1）を



写真1 世界自然遺産「白神山地」

をはじめ、高さ日本一を誇る能代七夕「天空の不夜城」（写真2）やギネスに登録されている綴子大太鼓



写真2 天空の不夜城

（写真3）などの多様な観光資源を有しており、なかでも「忠犬ハチ公」で知られる秋田犬は海外では「Akita」として世界的に高い知名度を誇り、



写真3 綴子大太鼓

「Akita」に関する検索数は「Mount Fuji」の2倍を超えている（写真4）。



写真4 秋田犬

最近では北秋田市の山間にある秋田内陸縦貫鉄道の無人駅・前田南駅が大ヒット長編アニメ映画「君の名は。」（新海誠監督）に登場する駅に酷似していると話題になり、熱心なファンが連日、作品の「聖地」一目見ようと訪れている（写真5）。



写真5 秋田内陸縦貫鉄道 前田南駅

また、道路整備については平成25年11月に日本海沿岸東北自動車道（以下、日沿道）の大館北～小坂間が開通し東北縦貫自動車道と接続されると、平成28年10月には鷹巣大館道路（鷹巣IC～二井田真中IC間）が開通し北秋田市が初めて高速道路ネットワークの一部に組み込まれた（図6）。



図6 大館地区における日本海沿岸東北自動車道の整備状況

この日沿道の整備進展を見据え平成27年5月から、今後の日沿道開通を最大限活かした効果的な地域展開方策の立案・実行に向けた議論を行うため、能代市、北秋田市、大館市、県振興局、国、能代商工会議所、大館商工会議所、大館青年会議所、秋田経済同友会が参加する「秋田県北地域の今後の地域展開に関する意見交換会」を定期的で開催し、産業面や観光面における県北地域の連携した取り組みについて議論している。

本稿では、その議論内容の中から、冬期観光に着目して現状と課題を述べるとともに、県北地域における地域展開の取り組みについて紹介する。

2. 意見交換会開催の経緯について

秋田経済同友会の呼びかけによって平成27年2月18日に「地域連携シンポジウム」が開催され、秋田県の子高齢化進展に対応するためには、これまで以上に地域戦略の構築と地域の連携強化が必要であり、このためには日沿道の開通が重要な要素であり、未着手区間への早期着手と完成を求める声が上がった。

日沿道は、平成27年度の能代地区線形改良の事業化によって、現道活用区間も含め日沿道の全IC間で整備が始まった。

これを地域戦略の構築を議論する適期と捉え、先の地域連携シンポジウムの参加メンバーである能代市長や大館商工会議所会頭らを中心に日沿道の開通を見据え県北地域が連携した地域展開方策について産業面や観光面など幅広い地域展開の方向性について議論を始めた。

観光面における現状としては県北地域の主な行祭事の観光入込客数をみると、3万人を超える大規模な行祭事・イベントは7月～10月の夏・秋の観光シーズンに集中している。一方で、冬期観光については、3万人を超える行祭事・イベントは、大館市の「比内とりの市（1月）」「大館アメッコ市（2月）」のみで、最大となる入込客数においても9万人程度に留まっており、7月～10月の行祭事と比較して冬期観光客は少ない傾向にある（図7）。

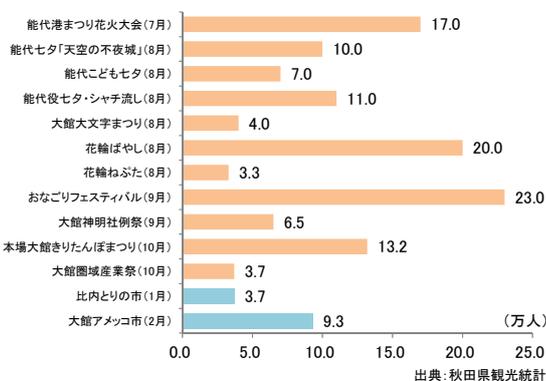


図7 平成27年度の秋田県北地域の主な行祭事・イベント

また、インバウンド観光に着目すると、東北地方の外国人宿泊者数は他地方に比べて少なく、秋田県は東北の中でも特に少ない状況である（図8）。

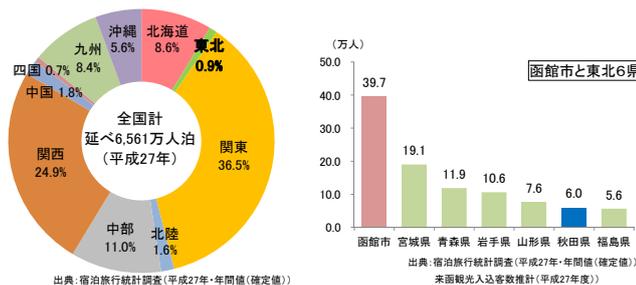


図8 平成27年度の外国人延べ宿泊者数

3. 意見交換会で協議された対策案について

秋田県北地域の観光における現状を踏まえ、今後の意見交換会の方向性として、個々の取り組みでは無く、地域の特性や資源を武器に、能代港や大館能代空港も含めた社会資本ストックを活用した秋田県北地域全体の連携が必要であることが確認され、これをきっかけに新たな地域展開の試みが行われてきた。

3.1 地域連携DMOの取り組み

意見交換会をきっかけに、平成28年4月にはインバウンド観光をはじめとする交流人口拡大を図るためには、地域全体で連携し多様なニーズに合わせたメニューを提供していくが必要なことから、大館市・北秋田市・小坂町・上小阿仁村と各商工団体は地域連携DMO「一般社団法人秋田犬ツーリズム」を発足した（図9）。



図9 地域連携DMO構成エリア

台湾やタイなどの東・東南アジアを主なターゲットとし、各地域が持つ観光資源を合わせた広域観光ルートを設定・発信していくため、各種フォーラムやシンポジウムの開催、マーケティング事業、国内・海外プロモーション事業、受入体制整備事業などに取り組んでいる。

3.2 核となるイベントを設けたイベントの連携

観光入込客数の多いイベントを核として、同じ時期のイベントと同時開催することで、観光ツアーの促進を図るという案が出された。

秋田県北地域の冬期における主要なイベントとしては、「この日にアメを食べると風邪をひかない」と伝えられ毎年2月の第2土曜日とその翌日に大館市で開催される「大館アメッコ市」があり、会場となるおおまちハチ公通りに種類豊富なアメを販売する露店が立ち並び（写真14）。近年は日沿道の開通もあり、県外への広報も強化しており、「横手かまくら」とあわせて「秋田2大冬祭りツアー」が組まれるなど県内外から多くの観光客が訪れている。



写真14 大館アメッコ市の様子

この「大館アメッコ市」を核とした連携イベントとして、平成27年度から新たに北鹿地域（北秋田、大館、鹿

角)の4つの商工団体が連携し、1~2月に各地で行われるイベントを対象としたスタンプラリーを行った。今後は地域内のイベント案内だけでなく、県北他地域の商工団体とも連携し県北全体への拡大を目指して検討を進めている(写真10)。



写真10 平成27年度の開催チラシ

今後は冬だけではなく、季節ごとに核となるイベントを設け、イベントの連携を図る方針が出された。

一例として、秋田県北地域の秋期における主要なイベントに、冬の到来を間近に控えた毎年10月の3連休に大館市で開催される「本場大館きりたんぼまつり」がある。秋田県を代表する食の一大イベントで、毎年県内外から多くの観光客が訪れている(写真12)。



写真12 きりたんぼまつり会場の様子

日沿道の整備進展による県外への広報展開の拡充(H25までは青森県や岩手県、H26からは宮城県にも)などにより来場者数は10万人を超え、平成28年度(第44回開催)は13万人の来場があった(図13)。

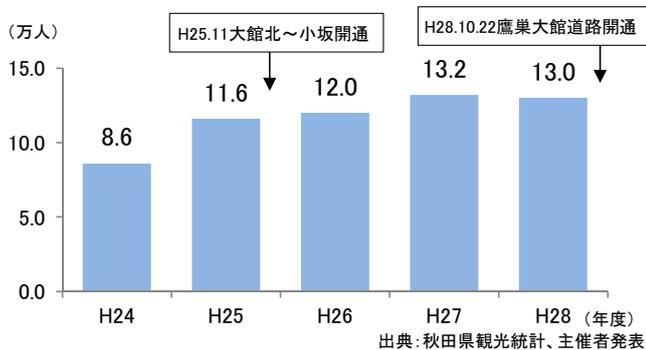


図13 きりたんぼまつり来場者数(3日間計)

3. 3連携した秋田県北地域スタンプラリー活動

また、道の駅による「食」を題材とした連携拡大として日沿道大館北～小坂間の開通を契機に、平成25年度から毎年夏と秋に大館・北秋田地区の道の駅(6カ所)と直売所(2ヶ所)が連携し、地元食材を活用した特別メ

ニューの提供と抽選でペア宿泊券などが当たるスタンプラリーを開始。平成28年度は「道の駅ふたつ」にエリアを拡大し、9月～12月の間「肉(にぐ)祭り」を開催しており、今後のエリア拡大について検討している(図11)。

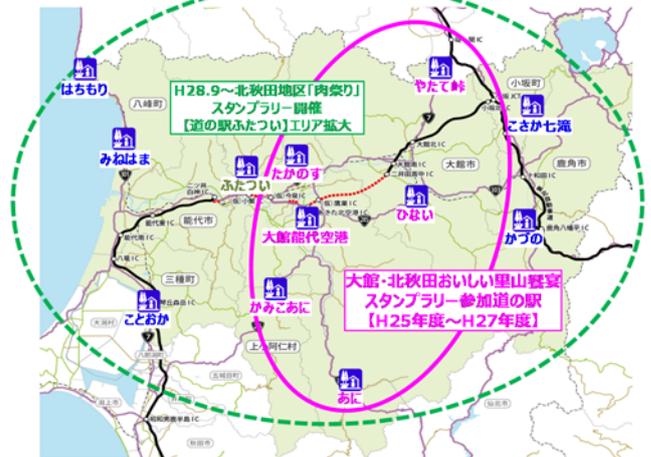
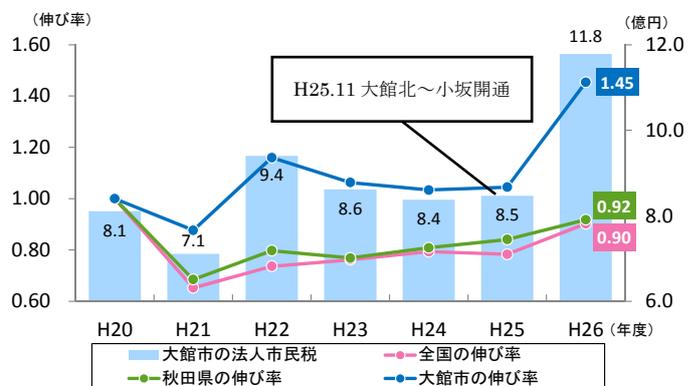


図11 県北道の駅連携によるスタンプラリー開催エリア

4. 今後の展望

以上紹介してきたように、意見交換会をきっかけに地域の連携が進んできている。この意見交換会は日沿道の整備を見据えて議論が行われており、能代河川国道事務所としては日沿道の全線開通を目指している。平成25年度の日沿道大館北IC～小坂JCT間の開通の際には、開通時期の公表後から企業進出や設備投資が急増しており、工場の新設などにより大館市の税収が増加している(図15)。また、観光面でも開通区間周辺の観光施設やイベントの観光入込客数が増加している(図16)。



出典: 市町村別決算状況調(総務省)

図15 大館市の法人市民税の推移

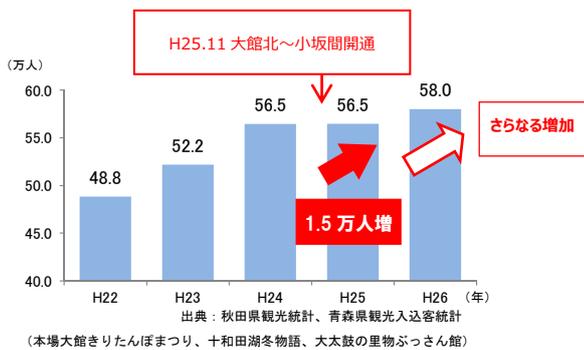


図 16 大館市・北秋田市・小坂町の主なイベント・観光施設の入込客数

また日沿道の開通を見据えた動きとして、大館能代空港から西に約2kmの位置にあり、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一つとして世界文化遺産登録を目指す「伊勢堂岱遺跡」では、平成28年4月に日沿道の整備を見据えたガイダンス施設をオープン。鷹巣大館道路開通で大湯環状列石（鹿角市）や三内丸山遺跡（青森市）等と連結され、周遊性の向上、さらなる連携強化が期待されている（写真17）。



写真 17 伊勢堂岱遺跡

さらに、北秋田市では、八甲田山（青森県）、蔵王山（山形県）と並び「日本三大樹氷」（写真18）のひとつに数えられている森吉山の観光について、日沿道の整備進展を見据え平成25年度から「まるごと森吉山観光振興プロジェクト」として、スキー場やビジターセンターの整備による観光基盤の充実を進めており、平成27年12月にはゴンドラ山頂駅舎のそばに森吉山ビジターセンター「ぶらっと」を開設した（写真19）。通年で楽しめる様々な体験型メニューの開発、統一的なイメージによるブランドの確立に取り組み、滞留型観光の拠点化を目指している。

他にも、県立自然公園から国立自然公園への移行を目指した取り組みが計画されているほか、日本三大樹氷（森吉・八甲田・蔵王）の連携による誘客促進の取り組みが検討されている。



写真 18 森吉山の樹氷



写真 19 ビジターセンター「ぶらっと」

また、観光客の玄関口となる大館能代空港の平成27年

度の東京利用者数は、過去最高の12万人を記録し（図19）、さらに平成28年11月3日には9年ぶりとなる国内チャーター便が広島空港から乗り入れた。乗客者は旅行会社などのツアーに参加し、JR五能線や秋田内陸縦貫鉄道を利用して世界遺産の白神山地など、北東北の紅葉を巡った。

今後は沖縄県の久米島空港や鹿児島県の奄美空港間で運行する予定で、チャーター便の定着を通して空港利用者の増加を図っていく方針を示している。

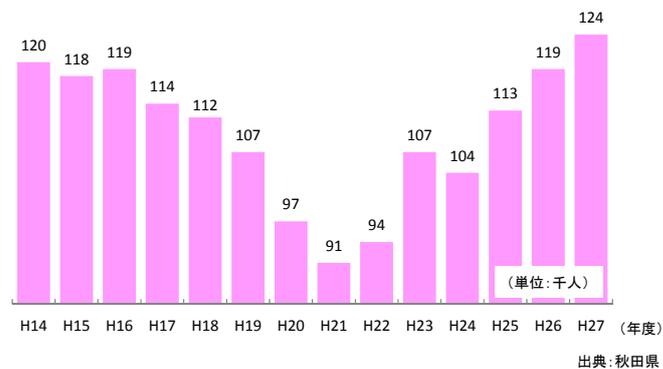


図 19 大館能代空港の利用者数の推移（東京便）

また、平成29年度には、空港直結となる「あきた北空港IC（仮称）」が開通予定であり、日沿道の整備進展によって、大館能代空港を中心とした観光ルートの広域化も図れるようになる（写真20）。



写真 20 整備中のあきた北空港IC（仮称）付近の状況

5. おわりに

国土交通省能代河川国道事務所では、今後も県北地域の発展のため、日沿道の早期全線開通に向けて取り組んでいく。今後、日沿道が全線供用となれば、県北地域のみならず青森・弘前エリアや北東北全体での周遊観光ルートの形成など様々な効果が期待できる。

また、今後も意見交換会を通じて、地元商工団体や自治体との協議を進め、産業面や観光面における県北地域の連携した取り組みを支援していく。